

東北地方の「地域のネットワーク」を活用した地域づくり

小金澤孝昭

ESD/ユネスコスクール・
東北コンソーシアム
コーディネーター
+NPO法人ESDJ理事



東北地方のネットワーク力と
地域資源を活用したSDGs・ESD
カリキュラムの創造と普及・発信

報告の構成

はじめに

- 1 持続可能な地域づくりとは？
- 2 東北地方の4つの地域実践事例の取り組み
- 3 地域づくりの事例：世界文化遺産～平泉町～
- 4 おわりに

はじめに

持続可能な地域づくりを進めるうえで重要なのは、SDGsで提起されている課題に取り組むだけではなく、その中から自分たちの地域にあった目標を探し出して自分事にすること、さらに、こうした課題に取り組む人材を育てるこ_ト（ESD）です。地域づくりは人づくり

本報告では、ESD/ユネスコスクール東北コンソーシアムで実践されている「地域を創る人材育成の教育（ESD）の実践事例」を取り上げます。2019年度のシンポジウムの成果をもとにまとめました。

- ・平泉町：世界文化遺産
- ・大崎市：世界農業遺産
- ・気仙沼市：震災復興地域・スローシティー
- ・只見町：ユネスコ エコパーク

平泉からの声

現場からの議論では「平泉学は、単に世界遺産の価値を学ぶことではなくて、今を生きる全ての町民の方々が、900年前の藤原氏の繁栄の時代から各時代に生きてきた先人の歩みを知って、現代に生きる人々の暮らしや生業や自然との関わりとかを再認識しながら、人口減少が進む数十年後の平泉に向けて、持続可能な社会づくりを考える」(岩淵教育長) という声に学び、

只見町からの声

「地域を持続させなくてはいけないです。 そうしたら、仕事がないなら俺が作ってやるっていうような人材を育てなくて、どうやって私たちの町は生きていけるのかっていうことになります」(斎藤前教育長) という声に励まされて、持続可能な地域づくりを考える。

1 持続可能な地域づくり

①SDGsと持続可能な地域づくり＝地域づくりの目標を明確にする。

SDGsの17の目標そのものではなく
自分の地域にあった目標を探し出すこと
が大切です！

東北地方の多くの地域では、少子高齢化
地方消滅の危機、震災復興が地域づくり
の目標になっています。



②持続可能な地域づくりの目標をどこに置くのか？

→東北地方の場合～人口減少対策、地域・地方消滅の防止

具体的には、→定住資本の再生（学校・教育、地域社会、産業、生活インフラ、地域コミュニティー）

→交流人口・関係人口、移住人口、定住人口

③持続可能な地域社会づくりと人材育成 (ESD) の役割 人材づくりと地域づくり(定住資本の再生～)

本報告では、学校教育における人材育成から地域づくりへ

➡ 地域社会と連携した学校教育・社会教育
～人材育成

④持続可能な地域社会づくりの方法

1) 地域テーマを設定する。～地域住民が合意できるテーマ

2) 地域ネットワークをつくる。～様々なメンバー構成
(多様なステークホルダー)

3) 人材育成の実践を進める。
～学校教育・社会教育・地域教育
～(地域農業の担い手教育、消費者教育)

2 事例4地域の特徴と実践(1)

地域名	1 求心力のある テーマ	2 地域ネットワーク	3 地域教育・地域づくりの内容
平泉町 7,408人 (2020年)	ユネスコ 世界文化 遺産	教育委員会+	<ul style="list-style-type: none">①学校教育・社会教育の 「平泉学」カリキュラム②全世代型平泉学構想③交流人口の創出
気仙沼市 61,376人 (2021年) 震災前 74,247人	被災地・ スロー シティ	教育委員会・気 仙沼ESD/RCE 円卓会議	<ul style="list-style-type: none">①気仙沼ユネスコスクールスクー ルESDカリキュラム(防災 教育・海洋教育)②ESD/RCE円卓会議③震災復興

2 事例4地域の特徴と実践(2)

地域名	1 求心力のある テーマ	2 地域ネットワーク	3 地域教育・地域づくりの内容
大崎地域 127,587 人 (2020年)	FAO世界 農業遺産	大崎地域世界農 業遺産推進協議会	<ul style="list-style-type: none">① フィールドミュージアム② 農産物等のブランド認証制度③ 人材育成
只見町 4,117人 (2020年)	ユネスコ・ エコパーク 生物圏保全地域	只見ユネスコエコ パーク推進協議会	<ul style="list-style-type: none">① 「只見学」実践カリキュラム② 山村教育留学③ 地域産業づくり

平泉町教育委員会

〒029-4192 平泉町平泉字志羅山45-2
<https://www.town.hiraizumi.iwate.jp/>



過去に学び、今を見つめ、未来を考える 「全世代型平泉学」

世界文化遺産の町平泉では現世浄土のまちづくりを進めた先人の思いや歴史を学び、伝統文化などの地域の宝を受け継ぎ、すべての町民が学ぶ「全世代型平泉学」を進めています。その取り組みを発展させ平泉の価値と魅力を国内外に発信しながら持続可能な平泉の実現を目指しています。



毛越寺あやめ園をお散歩する園児たち

参加体験⇒知識行動⇒発信行動のプロセスで学ぶ

● お散歩からガイド体験学習へ (幼保小中の系統たてた平泉学学習)

平泉の子どもたちは、町内の世界遺産・地域遺産・伝統文化から地域の人々の暮らしなどを通して地域を誇りに思う系統的な「平泉学」を学んでいます。その学習サイクルは、参加体験(見聞きし行事へ参加したりすること)、知識思考(資料から平泉をとらえ、話し合い、知識を深めること)、発信行動(町外の方々に平泉を発信すること)の学習をサイクル的に進めています。

幼稚園・保育所の子どもたちは街歩きのなかで身近な自然に触れ、謡の練習を通して平泉ならではの文化を感じています。小学校では、町の自慢や地域の祭り、産業と環境を調べ、その成果を町民の前で発表したりパンフレットにまとめたりしています。

中学生の平泉学学習では、最終目標を3年生としてのガイド体験に向けて、1年次の写経・座禅・発掘体験や平泉学検定への挑戦、2年次の防災学習、大文字火仗づくり、3年次の修学旅行での平泉アピールなどに取り組んでいます。



自分たちが育てた特産品
「黄金メロン」を販売する小学生



毛越寺、観自在王院跡を訪れた観光客を
英語でガイドする中学生

世代間交流を図り、地域の宝を学ぶ行政区での平泉学

● 世代を結ぶ地域学習

平泉学を子どもたちだけでなく、地域ぐるみの学習へと拡大させるため「地域学習」の取り組みも行われています。町内21行政区それぞれの子ども会が主体となり、地域遺産であり史跡や伝統行事・風習、郷土芸能、郷土料理などをテーマとして学んでいます。子どもたちを中心に地域住民が集まる絶好の機会となっています。子どもたちが地域の宝に興味をもち、祖父母世代から地域の歴史や文化を教わる、それは子どもだけでなく、大人もふるさとの良さを再認識する機会になっています。

郷土への愛着と誇りを次世代に伝える地域学習をきっかけに、世代間交流が活発になり、地域コミュニティの再生につなげたい、地域を知り、地域を語れる子どもたちを増やしたいと願って取り組んでいます。



18区の老人クラブと子ども会による
「郷土料理」昼食交流会の様子

平泉を伝える情報発信学習

● 黄金平泉情報発信プロジェクト

平泉ゆかりの地や全国の世界遺産地域を訪れ、平泉とのつながりを確かめ、訪問先での児童交流を通じて、見聞を広め、友好を深め、平泉の価値・魅力を積極的に発信することをねらいとして、2013年から「ジュニア平泉文化歴訪団」を組織して活動しています。

当初は、東北地方限定としていましたが、2018年からは「黄金平泉情報発信プロジェクト」として、訪問地を全国へ広げ、2018年には、弁慶終焉の地から生誕の地和歌山県田辺市を訪れ、本宮地区小学校の子供語り部の案内で熊野古道を歩き、互いに発信しあうことができました。また、2019年には、平清盛建立の広島県安芸の宮島を訪れ、宮島学園の児童に島内をガイドしていただき、発信交流を深めました。平和記念公園での貴重な平和学習もかけがえのない学びとなりました。今後も、「平泉を出て、平泉を考える」情報発信学習を継続していきたいと思います。



和歌山県田辺市を訪問し、本宮地区の小学生から
ガイドを受ける平泉町の小学生

● 全世代型平泉学の深化に向けて

幼保小中の平泉学から地域学習としての平泉学へと広がりを見せてきたのですが、その継続を考えるだけでなく、先人の平和への願いを受け、今を見つめ、町の将来のあり方を考えるための課題解決型学習へと発展させていくことが、平泉が目指す「千年のまちづくり」にとって欠かすことのできない全世代型平泉学なのです。

平泉町の地域づくりの特徴

- ①学校教育・社会教育の
「平泉学」カリキュラム
- ②全世代型「平泉学」構想⇒地域教育
- ③交流人口の創出

気仙沼市教育委員会

〒988-8502 気仙沼市魚市場前1-1

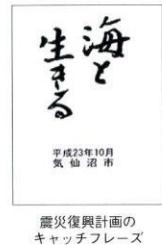


気仙沼 ESD が目指す「他者と共により良い未来を創造し、自分らしく幸せに生きるための教育」

気仙沼 ESD は、2002年の面瀬小学校の取り組みをスタートとし、地域の課題に向かい合い、その課題を解決するために何が必要かを考える学習をとおして、持続可能な社会づくりに貢献できる人材育成に取り組んできました。

学習指導要領にも ESD の理念が反映され、今後一層 ESD の重要性が高まっているなかで、気仙沼市は ESD として、「他者^{*}と共により良い未来を創造し、自分らしく幸せに生きるための教育」を進めています。気仙沼 ESD は、環境教育とか防災教育とか地域伝統文化教育とかの、特定の領域の教育を指すものではなく、このような「価値」に重きを置く教育全てを指しています。

*「他者」とは、「周囲・地域の人」であり、「現在の地球上の人」であり、「未来の人」です。



地域に根ざした実践と多様な連携

市内では、各地域の特色を生かした多様なカリキュラムが開発され、地域に応じて変化を遂げながら体系的・探究的な取り組みが実践されています。また、市内の関係者はもとより、大学や専門機関を含めて、多様な関係者との協力・連携のもとに展開されていることも大きな特徴です。

情報共有や連携強化のために、ユネスコスクール研修会のほか、年に1回多様な関係者が一堂に会する気仙沼 ESD/RCE 円卓会議を開催し、最新の情報を共有しながら、あるべき姿を共に考えています。



2019気仙沼 ESD/RCE 円卓会議

東日本大震災の教訓を踏まえた気仙沼 ESD における防災教育

気仙沼市は、東北地方太平洋沖地震・津波により多数の尊い命が犠牲になりました。このことを教訓とし、ESD の視点に立って防災教育の見直しを図りました。「防災学習シート」には、そのことを踏まえた指導の具体例が詳しく記載され、指導に即応できる学習プログラムが提供されています。

防災教育を ESD の柱に据えている階上中学校では、震災の教訓を次の世代に語り継ぎ、命を守る行動ができる未来人を育成するために、気仙沼震災遺構伝承館での語り部活動を始めました。



階上中学校生徒による語り部

「海と生きる」気仙沼に関わるカリキュラム

気仙沼市の震災復興計画のキャッチフレーズは「海と生きる」です。これまでも、これからも気仙沼市は海の恵みを生かすとともに、その厳しさを受け入れていきます。このことを踏まえて、気仙沼市では、海に関する学びを再構築し、海洋教育としてのカリキュラムの構築にも力を入れています。市内15の幼稚園・小学校で海洋教育推進連絡会を組織し、情報を共有し、大学や専門機関の指導・助言と協力をいただきながら実践をすめています。

また、気仙沼市は、「海洋プラスチックゴミ対策アクションプラン」を策定するなど、海洋環境保護に対して先進的な取り組みを始めました。気仙沼 ESD の中でも、この問題に関する学びを進め、市内の教職員や行政職員を対象とした研修会・や海岸のクリーン活動などの実践的な活動も行っています。

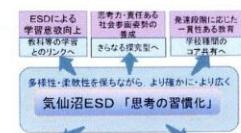


体験を遊びに生かしている幼稚園児

未来の気仙沼を描き、未来を創造する学びをとおした人材育成

●『思考の習慣化』を図る ESD とさらなる深化・発展へ

経済のグローバル化や AI の発達、少子化など急激に変化する社会のなかで、これまでの実績を生かしながら、持続可能な社会づくりについて考えることの価値に触れる体験的で探究的な活動を展開し、未来の社会に生きる「未来人」として必要な教養である「思考の習慣化」を図ることを目指します。活動の安定化とアクティビティ化を図りながら、市民参加を一層促進しながら、責任ある社会参画姿勢を身に付けていけるように深化・発展させていきたいと考えます。



これからの気仙沼 ESD とその可能性

●『地域社会を創造する力を養うプロジェクト』も実践しています。

高校で、中学校までの積み上げを土台とし、課題研究が行われています。この学習活動を、市行政や NPO 法人が主催する人材育成事業「ぬま大学」「ぬま塾」へと接続する地域創生を課題としたプロジェクトを開催しています。

気仙沼市の地域づくりの特徴

①気仙沼ESDカリキュラム(防災教育・海洋教育)

⇒幼稚園・小学校・中学校・高等学校＝ユネスコスクール

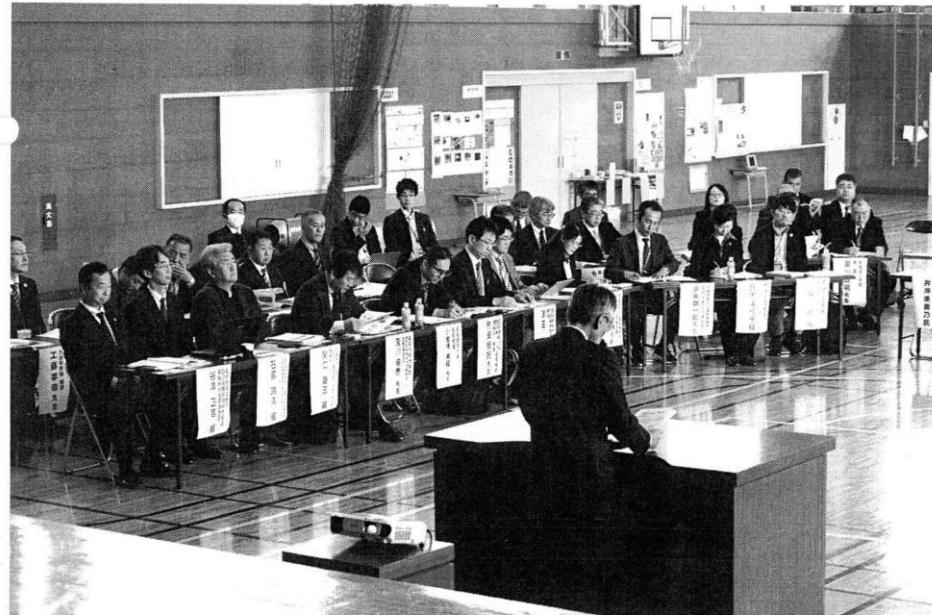
②ESD/RCE円卓会議

学校教育と地域との連携

③震災復興⇒地域振興～産業振興

気仙沼 ESD/RCE 円卓会議 2020

【参加名簿/開催要項】



気仙沼 ESD/RCE 円卓会議 2019 の様子

日 程	令和2年11月6日(金) 13:00~17:00
会 場	気仙沼中央公民館 第2~4会議室
主 催	気仙沼市教育委員会、宮城教育大学 ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム 気仙沼 ESD/RCE 推進委員会
共 催	東北地方 ESD 活動支援センター

令和2年度 第2回 気仙沼 ESD／ユネスコスクール研修会

【開催要項・参加者名簿】



令和元年度第2回気仙沼 ESD／ユネスコスクール研修会(令和2年1月16日)より

日時:	令和3年1月18日(月) 13:10~16:40
場所:	気仙沼中央公民館 3階会議室
主催:	気仙沼市教育委員会 気仙沼 ESD/RCE 推進委員会
共催:	宮城教育大学 ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム 東北地方 ESD 活動支援センター

大崎地域世界農業遺産推進協議会

〒989-6188 宮城県大崎市古川七日町1番1号
大崎市産業経済部世界農業遺産推進課
TEL:0229-23-2281
E-mail:osaki-giahs@city.osaki.miyagi.jp



「守るために活かす」 世界農業遺産“大崎耕土”を活かした持続可能な地域づくり

世界農業遺産に認定された大崎耕土の農業や文化、豊かな生態系、水田や水路、居久根（いぐね）「屋敷林」が織りなす美しく、機能的な農村景観などを未来に継承・発展させるため、大崎地域世界農業遺産推進協議会と関係団体が一体となって保全と活用施策を推進し、大崎耕土の農業と暮らしを一層誇り高いものにしていきます。

世界農業遺産テーマ

「持続可能な水田農業を支える『大崎耕土』の伝統的水管理システム」



FAO世界農業遺産国際フォーラムにて認定証を授与

フィールドミュージアム構想

大崎耕土の様々な地域資源を博物館の展示物のように巡ったり、体験することなどにより、地域の方々の理解醸成と交流人口の拡大を目指すのが“フィールドミュージアム構想”です。現在、地域資源の見える化に向けて以下の取り組みを実施中です。

- ① フィールドミュージアムマップの作成
- ② 地域ストーリー・散策ルートの作成
- ③ 映像制作
- ④ 室内板の設置
- ⑤ フィールドミュージアム拠点整備
- ⑥ 食・農体験等の受入体制の確立
- ⑦ プロモーションと機運醸成
- ⑧ 居久根の保全・活用

居久根は、大崎耕土の世界農業遺産認定における重要な構成要素です。大崎耕土に24,300ある屋敷林「居久根」の景観・生物多様性・農文化等における役割の大きさが挙げられます。



居久根や水路が織りなす独特の農村景観

大崎地域の農産物等認証制度

「豊饒の大地「大崎耕土」世界農業遺産ブランド認証制度」は大崎耕土で生産された農産物や工芸品等の付加価値向上を図るものであり、認証制度は、まず米から開始し、2019年産米から世界農業遺産地域の認定米として販売しています。

本認証の特徴は、米の認証については、大崎市にある宮城県古川農業試験場で開発された品種であること、農薬化学肥料の使用が慣行比5割削減であること、さらに、生き物のモニタリングを実施することを必須要件としているのが特徴です。これだけの広域で生き物調査を行う認証制度は国内でも初めての取り組みになります。

また、これに加えて、選択要件としてJAS有機農産物認証の取得、GAPの取得、多面的機能支払活動への参加、大崎地域を代表する希少品種を保全する取り組み、産地と消費者の交流など交流事業の実施の一つ以上を取り組むことを要件としています。



生き物モニタリングの研修会



認証マーク

世界農業遺産の副読本

世界農業遺産大崎耕土を「守るために活か」していくために、先人の知恵と努力を次世代に伝え、誇るべき郷土の宝として継承していくための人材育成を行っていくことは不可欠です。このようなことを踏まえ、2020年度から1市4町の小学校3~6年生の全員に“世界農業遺産副読本”を配布し、学校教育の中で大崎の魅力を学ぶ機会を設け、地域への理解を深める取り組みを進めていくこととしています。

副読本の作成は、1市4町の教育委員会の参考の下で編集会議を構成し、地域事情にも精通した各教育委員会の教員が執筆作業を行いました。

このような学校での副読本を用いた学習をきっかけに、地域の方々と大崎地域の魅力を共有し、世界農業遺産認定地域に暮らすことへの誇りを醸成していきたいと考えています。



世界農業遺産副読本（案）

大崎地域の地域づくりの特徴

①フィールドミュージアム

世界農業遺産の体験ツーリズム

②農産物等のブランド認証制度

米の認証制度（環境保全米+生き物モニタリング）

③人材育成~副読本~公民館活動~農業後継者教育

只見町教育委員会

〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下2591-30
TEL:0241-82-5320
E-mail:gakkou@town.tadami.lg.jp
<http://kir523528.kir.jp/>



ユネスコエコパークを軸にした持続可能な交流人口づくり

只見町は、福島県の南西部に位置し新潟県と接しており、町の総面積747km²の約94%が山林で占められている中山間地域です。人口は、現在4,200人台で、高齢化率も46%に達しています。

只見町は、平成26年にユネスコエコパークに認定されました。ユネスコエコパークの理念である「人間と自然の共生」を推進しながら、持続可能な発展のできるまちづくりを目指しています。



只見町の位置

「只見学」のユネスコスクール実践カリキュラム

只見町にある3つの小学校と1つの中学校は、ユネスコスクールとして、地域理解学習である「只見学」を核としたESDに取り組んでいます。世界の平和を守る人材育成の土台として、ESDの実践を通して故郷を誇りに思い、故郷の豊かな存続に寄与することのできる児童・生徒の育成を目指しています。

また、平成29年から東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターと提携し、海洋教育の視点を附加したESDを実践しています。地球規模の水の循環という広く大きな視点で只見を考え、「故郷を愛することは海や地球を守ること」という意識を児童・生徒に育むことをねらいとしています。

さらに、子どもも大人も地域への理解を深め、地域の価値を再発見することができるよう『只見おもしろ学ガイドブック』を刊行し、全戸配付しました。平成27年からは、『只見おもしろ学ガイドブック』の一層の浸透を図るために、「只見おもしろ学検定」を実施しています。

各小中学校の主な学習活動は、只見小「ふるさと登山」、朝日小「海洋交流学習」、明和小「伝統芸能の伝承学習」、只見中「地域合同防災訓練」などです。



田子倉湖の大雪の秘密を探ろう
(明和小5年生)



「只見おもしろ学ガイドブック」

エコパークを活用した交流人口の育成プログラム

少子高齢化が進行し、只見町の小中学生の減少とともに、只見町唯一の高校である只見高校への入学者も減少してきました。このようなことから、只見町は只見高校の存続のために、平成14年から「山村教育留学制度」を始めました。県内外から只見高校への入学者を募集することで、入学生の安定的確保を目指しました。留学生は男子寮、女子寮に分かれて生活しています。山村教育留学生によって只見高校の存続と活性化、そして只見町の交流人口の拡大につながることが期待されています。



(左) 山村教育留学生の生徒たちが、12月24日クリスマスの夜、只見保育園の幼児の家庭にサンタの衣装を着て、クリスマスプレゼントを子供たちに届ける、町の催しに参加した。

(右) 9月15日(日)、只見町内の只見、朝日、明和の3地区それぞれで運動会が開催され、山村教育留学生も只見地区の運動会に、「高校生」チームとして参加し、熱戦を繰り広げ3位入賞を果たした。

3小学校が各地域のつる細工保存会の方々に教えていただき、只見の伝統技術を学び地域の文化祭等で発信している。
(写真は明和小6年生)

地域の資源を活用した持続可能な地域づくりプログラム

● 地域産業づくり～合同会社「ねっか」の設立

合同会社ねっかは平成28年7月、只見町の米農家5軒で設立され、米焼酎「ねっか」を製造・販売しています。「ねっか」は、「私たちの故郷がいつまでも故郷であり続けますように」という深い祈りを込めながら、全量が只見の米でつくられており、自称「日本一小さな蒸留所」から生まれた米焼酎です。

合同会社ねっかは、地産地消、地域貢献、将来への継承のための活動にも取り組み、田植え・稻刈り体験を実施したり、ゲストティーチャーとして地元の小学校の授業に参加したりしています。



米焼酎「ねっか」
(合同会社ねっか HPより転載)

● ブナと生きる 雪と暮らす「自然首都只見」伝承產品

「自然首都・只見」伝承產品は、この地域の自然環境・生物多様性の保護・保全とそれらを拠り所とした地域の伝統産業や文化の継承・発展、地場産業の育成のために町が認定する制度です。

只見の雪深い大自然の恵みを受けた天然資源や農産物を原材料とし、伝統的な技術でつくられてきた、つる細工や農産物加工品等が厳正な審査を経て「自然首都・只見」伝承產品として認定・販売されています。



伝承產品を紹介しているパンフレット
(只見町役場 地域創生課)

只見町の地域づくりの特徴

- ①「只見学」実践カリキュラム⇒ふるさと学習
ユネスコエコパーク学習～海洋教育（山から街
から海へつながる環境学習）
- ②山村教育留学～交流人口+関係人口
- ③地域産業づくり～地域経済の設計⇒ねっか

3地域づくりの事例：世界文化遺産～平泉町

- 平泉学を軸にした地域づくり

- 平泉学の構成

全世代型「平泉学」の取り組み ~過去に学び、今を見つめ、未来を考える~

【平泉学の目的】

- ◆郷土に伝わる歴史や伝統文化、風土、風習など、地域の宝・財産を次代に受け継いでいく。
- ◆平泉学を通じて、地域課題の解決に向けた取り組みと持続可能なまちづくりの実現に向け取り組む。
- ◆世界遺産「平泉」の優れた史跡や平泉を創り上げた先人の思いを学び、平泉の価値・魅力を国内外に発信する。

【全世代型「平泉学」】

1. 幼・保・小・中の系統的な
「平泉学」への取り組み
感じる心、学びへの意欲、伝える力
【学習プロセス】
参加体験
発信行動
知的思考

2. 学び続ける生涯学習
心豊かな生きがいづくり
【取り組み内容】
わんぱく塾・親子ふれあい教室
家庭教育学級・青少年教育
女性教育・ゆうゆう学びランド
高齢者学級・町民講座など

3. 地域課題解決型学習
地域住民連携による学び
【テーマ】
人権学習、環境学習、地域資源活用
自然保護、男女協働、伝統文化継承
女性・青少年・高齢者教育など

【重点取り組み①】

行政区における平泉学
~世代を結ぶ地域学習~

- ◆ 各地区 P T A 主催、行政区協力
- ◆ 参加対象者 **子ども、保護者、地域住民**
- ◆ 内容
 - ・各行政区の地域住民が講師となり、全世代を参加対象とした交流と学びの場
 - ・地域の歴史や伝統文化、風習などを学びながら、地域の宝・財産を学ぶ。
 - ・子どもを中心とした交流を図りながら地域の連帯感を高める。

【持続可能なまちづくり】

～S D G s の達成に向けた取り組みとの一体的推進～

◆キーワード

多様性	一人ひとりの個性を認め合い、多様なニーズに合わせた地域社会
包摂性	「誰一人取り残さない」地域社会
相互性	それぞれの立場を越え、互いに手を取り協力し合う地域社会
有限性	限られた地域資源を有効に活用する地域社会
公平性	一人ひとりが平等に地域資源を享受できる地域社会
連携性	世代を越えて、世代間交流を図りながら学び合う地域社会
責任性	それぞれの役割と責任を果たす地域社会

【重点取り組み②】

情報発信型「平泉学」
～「黄金平泉」情報発信プロジェクト～

- ◆ 教育委員会主催
- ◆ 参加対象者 **小学校高学年（5・6年）**
- ◆ 内容
 - ・全国各地の平泉縁の地、世界遺産関連地を訪問し、歴史的つながりや世界遺産の価値を学ぶ。
 - ・訪問地での児童交流を通じ、相互にまちを P R し、地域学習の取組を学び合う。
 - ・世界に向けて平泉の魅力を伝えるまちの情報発信者としての力を養う。

幼・保・小・中で取り組む「平泉学」

- ◆ テーマ「地域を学び、地域を知り、地域を発信する」
- ◆ 学習方法 ① 「地域学習」と「世界遺産学習」の2つの学びから、平泉の歴史や地域文化を学び、郷土への誇りと愛着心を養う。
② 地域学習では、地域の歴史や伝統文化、お祭り、産業などあらゆる分野から平泉のまちを知り、学びを深める。
③ 世界遺産学習では、世界遺産「平泉」の優れた史跡の価値や奥州藤原氏など先人の思いを学び、平泉文化の保存・活用・継承する人材を育成する。
- ◆ 具体的プログラム ① **郷土芸能体験講座**…教育委員会主催、**小学生高学年・中学生対象**、地域の伝統芸能を学ぶ。《地域学習》
② **わくわく平泉学スクール**…教育委員会主催、**小学生・中学生対象**、学校の総合的学習の時間を活用、地域の専門家が講師となり体験学習を実施する。《地域学習・世界遺産学習》

【特集】知れば知るほど好きになる

何問正解できるかな?

平泉クイズ

Q1 中尊寺にあり、金箔で覆われた堂を何といいますか?

Q2 四代泰衡の首桶から発見された種子から発芽し、開花した花の名前を何といいますか?

Q3 金鶴山には、平泉を守るために何を埋めたとされていますか?

Q4 京都の寺院をモデルとして、秀衡が建立した寺院を何といいますか?

Q5 観自在王院は誰が建立したとされていますか?

Q6 中尊寺を建立するに当たり清衡が書いた文章を何といいますか?

Q7 清衡の発願で、金字、銀字を1行ごとに交差し、8年がかりで作成したお経を何といいますか?

(答えは下段にあります)

子どもたちは歴史や文化を知る
将来を担う人材づくり



【表1】学年別にテーマなどを定めた平泉学の系統

学年	学年	世界遺産学習のテーマ	地域学習のテーマ
ふれる／感じる	幼稚園・低学年	世界遺産の町を見て歩こう	地域を見て歩こう
ふれる／知る	中学年	世界遺産にふれ・知ろう	地域にふれ・知ろう
知る／考える	高学年	平泉の歴史を知ろう・考えよう	地域を知ろう・考えよう
学年		平泉学のテーマ	
知る 見つめる 広げる	中学校	「過去を知る」～平泉の歴史と文化を学ぶ～ 「今を見つめる」～世界遺産になった平泉を見つめる～ 「未来に広げる」～日本の平泉から世界の平泉へ～	

【平泉クイズの答え】
 ▷ Q1 金光明寺
 ▷ Q2 中尊寺ハス
 ▷ Q3 黄金の鏡
 ▷ Q4 無量光院
 ▷ Q5 基衝の妻
 ▷ Q6 中尊寺建立
 ▷ Q7 紙金銀字文書

第1章 平泉への誇りと愛着を養う

ユネスコの世界遺産登録から今年で7年。町では平泉の素晴らしさを発信するため、地域全体で遺産の価値を共有するさまざまな活動を展開しています。

地域に詳しい子どもたち



毛越寺の歴史について勉強する平泉中の生徒たち

「平泉学」の取り組み

地域について詳しい子どもたちが多い背景は、町内にある町立保育所2園、町立幼稚園1園、小学校2校、中学校1校で取り組んでいる「平泉学」と名付けられた世界遺産学習とあります。

「平泉学」は、平泉中学校1年生が挑戦する「平泉学検定」の問題の一部です。これは学校が独自に作った検定で、全て地元の歴史や文化に関する問題で構成されており、1年生全員が50点満点中45点以上の「1級」を目指します。実は大人よりも子どもたちの方が、地域の歴史や文化について詳しいかもしません。

【特集】知れば知るほど好きになる

あなたは地域の歴史や文化を知っていますか？町では、平泉の世界遺産登録を契機に町民の「郷土愛を育むことを目的とした

地域について学習する取り組みを全世代で進めています。

平泉だからこそできる学習とはー。

今月号では、そんな気になる町の取り組みについて紹介します。



(写真)世界文化遺産の構成資産である「観自在王院跡」

平泉学①平泉への誇りと愛着を養う！

●地域に詳しい子どもたち

平泉学検定

●将来を担う人材づくり

世界遺産学習～学年別テーマ➡次のスライド

学年別 『平泉学』の学習

学習活動	学年	学習テーマ
ふれる・感じる	幼稚園・低学年	世界遺産の町・地域を見て歩こう
ふれる・知る	小学校中学年	世界遺産の町・地域に触れ・知ろう
知る・考える	小学校高学年	平泉の歴史を知ろう・考えよう
知る	中学校1年	「過去を知る」平泉の歴史・文化を学ぶ
見つめる	中学校2年	「今を見つめる」世界遺産になった平泉を見つめる
広げる	中学校3年	『未来に広げる』日本の平泉から世界の平泉へ

②来年もこの場所で(幼稚園・保育園)

- 謡の稽古に励む園児たち

藤原祭りで披露する謡の練習・中尊寺白山神社能舞台

- 平泉の文化を肌で感じる

藤原まつりへの参加

- 町を歩き、町に触れる。

リンゴ園でのリンゴ狩り体験、毛越寺のあやめ園散策、熊野三社でのお話、夏越（なごし）のおお祓いの体験



Interview

長島小学校
たかはし
高橋 駿
校長

古里を愛し、誇りを持つ人へ

社会について広く学ぶことは大事ですが、自分が生まれ育った町について知ることも重要です。子どもたちは地域の行事などにも積極的に参加しており、地域学習を通じて、地域の人たちがこの町を愛し、誇りに思っていることを実感しています。

その思いを知ることで、子どもたちも自分の古里を愛し、誇りを持ち、自然やそこに住む人たちを大切にする大人に育ってほしいと思います。

Voice



「平泉大文字送り火について学習」
長島小学校4年生
山田幸多郎さん



①町の基幹産業である農業について学習する平泉小5年生。田んぼに生えている雑草の種類を調査／②黄金メロンの定植作業を体験する児童たち／③大きな声で自分たちが育てた町の特産品の黄金メロンを販売

仕事への情熱や誇りを知る

「知る 考える」の段階にある

平泉小学校5年生では、ロマンタイムの一環で黄金メロン、米作り寺、観光の四つのグループに分かれて地域の産業について学習を進めています。

児童たちは、水稻や黄金メロンなどの栽培から販売まで携わることで、農業や商業など町内の産業に対する関心を高めています。今後はこれまでの学習で学んだ町内における産業の問題点や自慢などの成果をポスターやパンフレットにまとめるだけでなく、小学校の授業参観日で保護者を前に発表する予定となっています。

児童たちは学習を通じて、町の産業について理解を深め、今に生きる町の人たちの仕事への情熱や誇り、町を思う気持ちも学んでいます。

町内だけじゃない

県外での学習



町教育委員会では、参加を希望する児童を対象に、県外児童と交流し、平泉の魅力などを発信しています。

ジュニア平泉文化歴訪団

奥州藤原氏が築いた阿津賀志山防壁がある歴史的な縁で始まった福島県国見町児童との交流事業。2013年から互いの町を訪問し、伝統行事の祭りなどを体験しながら交流を図り、歴史や文化、伝統について相互に学び合っています。



黄金平泉情報発信プロジェクト

2018年度から新たに始まった事業で、全国にある平泉ゆかりの地や世界遺産地域などを訪れます。訪問先での児童交流を通じて、見聞を広め、友好を深め、社会性を身に付けながら、平泉の価値・魅力を積極的に発信する力を養っています。



「米作りについて学習」
平泉小学校5年生
千葉舜太さん



「黄金メロンについて学習」
平泉小学校5年生
鈴木莉奈さん

田植え作業では、苗を植えるのが難しかったです。田んぼの中ではいろいろな雑草や生え物が見えて、面白かったです。

黄金メロンの栽培に手間がかっているのが分かりました。自分で栽培したメロンはおいしくて、作業も楽しかったです。



駒形峰に描かれた「大」の字

毎年8月16日に行われる平泉大文字送り火



大文字送り火の由来を学ぶ長島小4年生

資料を見るだけではなく、実際に現地で長さを測定

意欲的に取り組む児童たち

これってどういう意味なんだろー。」
その小さな疑問こそ、このまちを好きになるきっかけ。

今年も児童たちの忘れられない体験が始まりました。

第3章

行事を通して郷土を学ぶ

小学校の中学年になると平泉学の取り組みは「ふれる 知る」の段階へと進みます。北上川東岸の田園地帯にある長島小学校では、祭りや行事を通して郷土を学んでいます。

同校4年生17人は8月30日、町の送り盆行事平泉大文字送り火で駒形峰に浮かび上がる「大」の字の大きさを測定し、地域に伝わる行事への理解を深めました。この学習は平泉文化の伝承や郷土の醸成を図るために町教育委員会が主催する「わくわく平泉学スクール」の一環として実施されています。

学習では、講師を務める平泉文化遺産センターの千葉信館館長が「大文字送り火は戦没者慰靈や盆の送り火などを目的に行われており、平和な世界を目指す平泉にふさわしい行事」と説明。その後の現地学習では3班に分かれて1個ずつ火床に沿って巻き尺を伸ばしながら歩き、その長さを測定しました。測定し終えた児童たちは「今まで測ったのを思い出に来年の大文字を楽しみたい」と話し、行事に込められた想いや願いに触れることで、行事を継承する意義についても考えていました。

【平泉小学校】ロマンタイム(総合的な学習の時間)

平泉小学校では、総合的な学習の時間を中心として「平泉学」に取り組んでいます。

■学習の目標

地域の人々の暮らしや伝統・文化、生き方に関する探究的な活動を通して、自ら学ぶ力を育てるとともに、自己の生き方を考えることができるようになります。

学年(テーマ)	学習活動の内容
3学年 (発見 たんけん 平泉)	▷史跡巡り▷自慢探し▷味自慢探しーなど
4学年 (笑顔広がれ 平泉)	▷町内の祭り調査▷高齢者との交流ーなど
5学年 (知ろう! 創ろう! 平泉の産業)	▷町内の産業調査(特徴や問題点)ーなど
6学年 (見つけよう未来の私と平泉)	▷平泉を見つめ直す▷地域貢献ーなど

【長島小学校】地域学習「平泉学」

長島小学校では、生活科・社会科や総合的な学習の時間、地域行事を通じて、地域学習「平泉学」に取り組んでいます。

■学習の目標

世界遺産の地に生き、郷土平泉をよなく愛し、その発展をさせるために夢と高い志を持って学び、生きていこうとする「ひとづくり」を行います。

学年(テーマ)	学習活動の内容
3学年 (長島の名人から学ぼう)	▷学区内探検▷長島の自慢調査ーなど
4学年 (知ろう! 地域の歴史・文化)	▷地域の祭り・行事の調査▷大文字の計測ーなど
5学年 (長島の自然と環境)	▷水質調査▷古事の森学習▷あいぼーと見学ーなど
6学年 (古都平泉を知ろう)	▷平泉ウォーク▷個人の調べ学習ーなど

③意欲的に取り組む児童たち(小学生)

- 行事を通して郷土を学ぶ

- 「平泉大文字送り火」の現地確認

- 仕事への情熱や誇りを知る

- 知る・考える学習～地域の産業学習－農業・黄金メロン栽培

- ◆総合的な学習

- 平泉小学校ニロマンタイム

- 長島小学校ニ地域学習

ずっとこのまちで育ってきた

今自分たちが住んでいる場所がどういう場所かを知ることで地域への誇りが生まれます。これからの町の未来を担っていく平泉中学校の生徒たちは、これまでの学習を通じて、自らが平泉の情報を発信できる人へと着実に成長しています。



古里を発信できる人へ成長

各年代別に系統立てた平泉学の集大成となる中学校生活。平泉中学校では学年ごとに「過去を知る」「今を見る」「未来を広げる」と題して、より具体的な学習を展開しています。

1年生はテキストや平泉学検定で歴史と文化を学び、2年生

は平泉大文字送り火の火床づくりに参加するなどし、現在の平泉を感じます。そして3年生では町内の各史跡で町を訪れた人たちへ平泉の魅力などを伝えます。

10月6日に実施された平泉ガイド体験では、3年生60人が毛越寺、柳之御所遺跡、觀自在王院跡、無量光院跡、高館義経堂、道の駅平泉の6カ所に分かれて観光客らを案内。生徒たちはこの日に向けて史跡ごとの説明の要点ガイドのこつや心構えなどを学び、練習を積んできました。

最初は緊張して小声になる生徒もいましたが、慣れてくると大きな声で分かりやすく説明し、観光客らの質問にも丁寧に答えていました。

平泉の歴史や文化など、これまで学んだ内容を通して、一人一人が古里平泉を発信できる人へと成長していました。

— Voice —

平泉に住んでて良かった

発掘調査では土器の欠片を見発見することができず残念でしたが、とても楽しかったです。身近でこのような体験ができるので、平泉に住んでて良かったと思います。今後もできる限り地域に貢献したいです。



平泉中1年生
三浦なつきさん

— Voice —

今後も古里について学びたい

正しい姿勢で集中力を保つのはすごく疲れましたが、世界遺産の毛越寺で座禅が体験できて良かったです。今後も平泉の文化遺産や伝統行事など、古里について学んでいきたいです。



平泉中1年生
阿部蒼介さん



①静まり返った毛越寺本堂で座禅を体験する平泉中1年生／②写経体験では生徒たちが一字一文字で丁寧に書き写していた／③心静かな時間を過ごす



①町内の遺跡で作業員に教わりながら発掘作業に汗を流す生徒たち／②約1時間の発掘体験で出土した多くの土器片／③作業中に土器片を見つけ喜ぶ生徒

百見は一体験にしかず

「百見は一見にしかず」ということわざがあるように、何度も繰り返し話を聞くよりも、一度実際に自分で見た方が理解が深まります。平泉学では見たり聞いたりするだけでなく、さらには興味や関心を高めるため、実際に体験することを大事にしています。まさに「百見は一見にしかず」です。中でも特徴的なのが、「わくわく平泉学スクール」の一環として平泉中学校1年生が取り組んでいる写経・座禅体験「発掘・拓本体験です」。

1年生64人は7月9、10日の両日にわたって2組に分かれ、町内の僧侶を講師に写経と座禅を体験。生徒たちは背筋を伸ばして呼吸を整えたり、慎重に筆を運んだりしながら心静かな時間で過ごしていました。また9月11、12日には町内の遺跡で発掘や拓本作業も体験しました。実際の遺跡に触れるながら、発掘作業員から調査のノウハウなどを学び、泥だらけになりながらも作業に精を出していました。日々、当たり前のように遺跡に閉まれた中で生活している生徒たち。平泉ならではの体験を通して、平泉の価値や魅力を再発見しています。

「郷土・平泉学」の構想

平泉中学校では、「郷土・平泉学」を通じて、地域を見つめ地域を大切にしようとする態度を培い、将来の平泉を担う人材の育成につなげています。

学年(主題)	学習の概要
1学年 (過去を知る)	▷ 平泉遠足(史跡と文化財の見学)▷ わくわく平泉学(写経・座禅・発掘体験)▷ 平泉学検定▷ 平泉歴史探検(発表)
2学年 (今を見つめる)	▷ 水地学習(水害対策・地域防災)▷ 平泉ガイド学習▷ 大文字火床づくり(PTA行事)▷ 平泉紹介パンフレット作成など
3学年 (未来に広げる)	▷ 修学旅行での平泉アピール活動▷ 夢あかり▷ 平泉ガイド体験(自分たちの言葉で平泉を紹介)

伝統芸能
に触れる

郷土芸能体験講座

郷土芸能の次世代への継承を目的として、町教育委員会が小中学生を対象に、2015年度から開設している講座。受講生は町内の達谷地区に伝わる「達谷窟鬼沙門神楽」を習得するため、基本的な動作や舞い方などを学んでいます。



Interview



「わくわく平泉学スクール」
発掘・拓本体験 講師
平泉文化遺産センター
しまはら つる きょう
島原弘征
主査文化財調査員

平泉でしかできない特別な体験

町内の遺跡から出土する素焼きの土器「かわらけ」も、他の地域ではなかなか出土することがない貴重な遺物です。

普通は博物館などで、ガラス越しに遺物を見るところしかできません。そのため平泉中学校の生徒のように自分で発掘し、土器の欠片などを見つけるという経験は、このまちでしか体験できない最も特別なことです。

身近な文化財に直接触れることで平泉文化により親しみを感じてほしいです。

④ずっとこの町で育ってきた！(中学生)

●古里を発信できる人への成長

1年生：「平泉学」検定

2年生：「文化財現地調査」

3年生：「ガイド体験」

●百見は、一体験にしかず！

写経・座禅体験発掘拓本体験

『郷土・平泉学』

1学年:過去を知る

2学年：今を見つめる

3学年:未来に広げる

第5章 魅力あふれる地域を受け継ぐ

自分たちが地域の歴史や文化などを子どもに教える。それは子どもだけでなく、大人も地域の良さを再認識する機会につながっています。

Voice 参加者の声(19区)

子どもに教えることで自分も勉強になる

地域の昔話を子どもたちに伝えたい

いろいろな話を教えてもらい楽しかった

【講師】小島神社宮司
島山清一さん

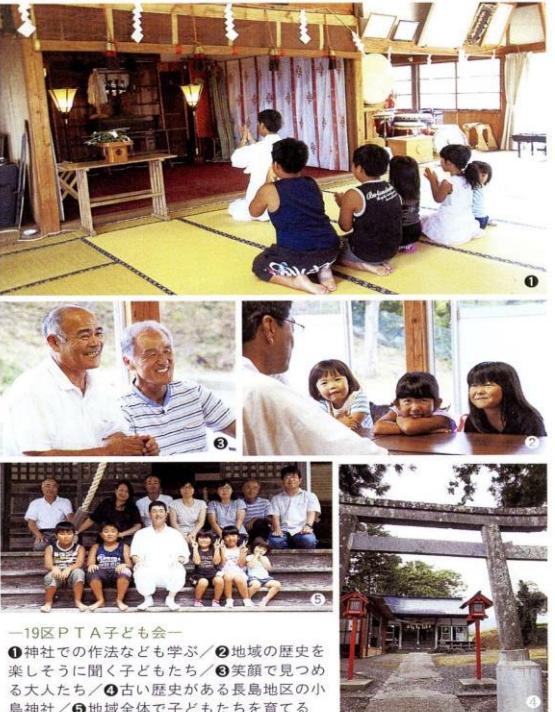
地域の歴史を子どもたちに分かりやすく教えることで、大人の自分も勉強になる。子どもの感性と個性を生かすよう、多様性を生かす教えています。

地域にまつわる昔話を聞くのはとても興味深かったです。地域の歴史を勉強して、子どもたちに聞かれて、答えられるようにしたいと思います。

小島神社や地域の歴史、日本を創った神様の話などいろいろなことを教えてもらい、楽しかったです。今まで分からなかったことが知れて良かったです。

(参考)2017年度 各行政区の「地域学習」概要

- 1区 伝統風習「縄ない」体験
- 2区 「しめ縄づくり」講話、実習
- 3区 地域料理「果報だんご」の歴史、料理体験
- 4区 伝行事「きんこならし」体験、もち文化学習
- 5区 「もちつき、鏡もくづくり
- 6区 「しめ縄づくり」講話、実習
- 7区 歴史講話「地域の世界遺産について」
- 8区 地域のお年寄りとの世代間交流
- 9区 「もちつき、みづき団子、お雑煮」づくり
- 10区 「祇園獅子舞」伝承活動
- 11区 VR歴史学習
- 12区 「昔遊び体験・豆」に関する講話
- 13区 地域料理「果報だんご・煮あげぱつとう」づくり
- 14区 伝行事「どんど祭り・お炊き上り」体験
- 15区 地域料理「八斗」づくり
- 16区 歴史学習「神社の歴史」
- 17区 歴史学習「愛宕神社の歴史」
- 18区 豊作祈願「きんこならし」体験
- 19区 「しめ縄づくり」講話、実習(20区と合同)
- 20区 「しめ縄づくり」講話、実習(19区と合同)
- 21区 歴史学習「地域の歴史を見つけていこう!」



—19区PTA子ども会—

①神社での作法などを学ぶ／②地域の歴史を楽しもうに聞く子どもたち／③笑顔で見つめる大人たち／④古い歴史がある長島地区の小島神社／⑤地域全体で子どもたちを育てる

は夢中で頬張っていました。
4区では学習を通して、親子だけでなく地域内での絆も育んでいます。

地域の良さを再認識

8月5日、19区PTA子ども会による地域学習が小島神社で開かれました。小学生や保護者ら約15人が参加し、地域に伝わる歴史などについて学習。講師を務めた小島神社宮司の島山清一さんは「子どもに教えていると、大人では考えられない質問が出てきて面白いと語ります。若い世代が地域に興味を持ち、元の人にから歴史や文化を教わる。それは子どもだけでなく、大人も郷土の良さを再認識する機会になっています。



稲刈りを通じて地域内の絆を深める12区

地域コミュニティの再生へ

現在、地域を知り、地域を語れる子どもと大人が増えていました。郷土への「愛着と誇り」を次に伝える地域学習をきっかけに、世代間交流が活発となり、地域コミュニティの再生にもつながっています。



—4区PTA子ども会—

①紙玉鉄砲作り終了後には参加者みんなで流しそうめんを楽しんだ／②子どもたちを温かく見守る地域の人たち／③講師や親から作り方の二つを教わる／④本物の鉄砲のような音が出る紙玉鉄砲に驚く子どもたち

地域でテーマを考える学習

平泉学を子どもたちだけでなく、地域ぐるみの学習へと拡大させるため、2014年度から「地域学習」の取り組みが始まりました。この学習は町内21行政区それぞれのPTA子ども会が主体となり、自分たちの住む地域の郷土料理や伝統芸能などをテーマに取り組むもので、子どもたちを中心に地域住民が集まる絶好的の機会となっています。

世代間交流の場

4区ふれあいセンターで7月29日、4区PTA子ども会が主催する地域学習「紙玉鉄砲作り」が行われました。紙玉鉄砲とは紙の玉を空気圧で飛ばすおもちゃのこと。材料は竹と新聞紙など身近にあるものだけを使う昔ながらのおもちゃです。学習には小学生とその保護者、地域住民ら約20人が参加。児童らは慣れない手つきを受けて、上手に竹を切り、紙玉鉄砲を完成させました。参加した児童は「作るのは大変だったけど、自分で作ったおもちゃで遊ぶのは楽しい」と満足そうな笑顔を見せていました。また昼食には流しそうめんが振る舞われ、児童たち

Voice 参加者の声(4区)

紙玉鉄砲も流しそうめんも楽しかった

平泉小学校3年生
千葉葵衣さん

手作りのおもちゃを次の世代へ

【講師】4区住民
高橋 誠さん

この地域を盛り上げていきたい

4区PTA子ども会会長
斎藤和也さん

昔ながらの遊びを、子どもたちも楽しそうにやっています。地域の皆さんと一緒に集まって、この地域を盛り上げていきたいと思います。

⑤魅力あふれる地域を受け継ぐ！

●地域でテーマを考える学習

地域ぐるみ学習

●世代間交流の場

地域住民と小学生との交流 19PTA子供会

●地域の良さを再認識

しめ縄づくり、餅つき、郷土料理はっとづくり
流しそうめん

●地域コミュニティーの再生へ

⑥学習を通じて地域の価値を共有(生涯学習)

●価値を知る人を増やす

平泉ウォーキング教室(歴史編)

→平泉文化遺産センター

●美しい自然がある平泉

平泉ウォーキング教室(山野草編)

●地域素材を活用した学習

過去に学び、今を見つめ、未来を考える
全世代型平泉学への発展を



町教育委員会
岩渕実 教育長

世界文化遺産登録を果たし、ここ10年、学校教育において、平泉への愛着と誇りを図るため、平泉の価値を学ぶ「幼保小中の系統的な平泉学学習」を続けてきました。その内容は発達段階に応じて、先人の願いに触れ、世界遺産の価値や地域に残る遺産や伝統文化に学ぶことから、今を生きる人々の努力を知り、明日を生きる自分たちの思いも含めて全国に発信する学習と言えます。この学習は、伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、志高く未来を創り出していくために必要な資質の能力を確実に育む教育の実現につながるもので

少子高齢化、人口減少社会の危機感が叫ばれている現代において、町の教育大纲に掲げる「一人一人が輝き、幸せを実感できるまちの実現」を目指す当町においては、これまでの学校教育中心に取り組まれてきた平泉学学習の成果と課題を踏まえて、より広範な町民の方々が積極的に関わる過去に学び、今を見つめ、未来を考える「全世代型平泉学」へと発展させたいものです。それが当町にとっての持続可能な社会づくりにつながると言えます。

【表1】5年ごとの人口の推移

年次(年)	人口合計(人)	0~14歳の人口(人)
1990	9,493	1,867
1995	9,288	1,531
2000	9,054	1,243
2005	8,819	1,151
2010	8,345	989
2015	7,868	898

(参考)2018年町勢要覧・資料

地域問題を解決するために
人口減少の進行は避けられない
見通しにあります。(表1参照)
また核家族化やライフスタイルの変化などにより、地域のつながりが希薄化し、高齢者の孤立化を招く、無縁社会が全国的に地域問題となっています。

当町の人口は2000年まで
は9千人を超える人口でした
が、現在では8千人を下回る状
況となっていきます。全国と同様
に、当町でも将来的な高齢化や
人口減少の進行は避けられない
見通しにあります。(表1参照)

そのような状況の中、人口を
増やし、地域を活性化していく
ことは厳しいかもしません。
しかし、自分が住んでいる町
の魅力を再確認し、地域の絆を
深めていくことができれば、豊
かな地域づくりへとつながり、
課題解決の糸口になります。

町の未来を切り開く力

人口8千人を下回る「小さな
町」平泉。その小さな町には歴
史ある遺跡や文化特産品など
地域が誇る「大きな宝」がたくさん
あります。しかし身近にある
からこそ当たり前に見えてき
て、その価値には気付かず見逃
しがちになってしまいます。

種をまき芽が出て大切に育て
ることをきっかけに、子どもたち
だけでなく大人たちの心の中に
も「郷土愛」という意識が芽生え
始めています。今は気付かなくな
って、10年後、20年後には町の風
景や文化を懐かしみ「この町に
住み続けたい」「この町に帰つ
きたい」といった古里を愛する
心へと成長していきます。その
思いは私たちの町の未来を切り
開く力となっていくはずです。

【特集】知れば知るほど好きになる
一 終わり



④平泉中では、毎年3年生の修学旅行時に、東京都内において生徒自身が作成したパンフレットなどを活用して古里・平泉のアピール活動をしている／⑤今年活動を実施した東京都荒川区の日暮里駅前／⑥駅前で合唱を披露する生徒たち



①中尊寺や毛越寺で使われた古いろうそく／②古いろうそくを溶かし色素を混ぜ、キャンドル作りに取り組む平泉中生徒たち／③完成した世界遺産キャンドル



平泉が誇る宝。

世界文化遺産はもとより、伝統文化や伝承芸能、そして何より人材というかけがえのない宝が、今もこの地域で輝いています。

最終章

久遠に輝く平泉の宝

中学生が東京でアピール活動

いたキャンドルはすぐになく
なっていました。

「私たちが岩手県の平泉中学校
の3年生です。古里『平泉』に
ついて紹介させてください！」

最後に決意「平泉伝説」「地
球の鼓動」の合唱3曲を披露し、
その素晴らしい歌声に多くの人
が足を止めて聞き入りました。

暮里駅前を通つていく人たちに
語り掛ける生徒たち。修学旅行
の一環として平泉中3年生の姿で
活動を行う平泉中3年生の姿で
語り掛ける生徒たちは緊張せず、堂々と
平泉の歴史や魅力を道行く人々
に伝えていました。

またこの日のために自分たち
で作成し準備してきた「世界遺
産キャンドル」も配布。美しい
キャンドルに込められた淨土の
心、平和への思いも紹介し、受け
取った人たちから「きれい」「か
わいい」と喜ばれ、準備して
いたキャンドルはすぐになく
なっていました。

これまでの中学校生活で学ん
だことを知らない土地で学ん
だことを知らない土地で学ん

功で幕を閉じました。説明を聞
いた人たちからは「平泉に行つ
てみたくなった」といった声が
わざわざ聞こえました。この経験は生
徒たちにとってかけがえのない
思い出になると同時に、仲間同
士の絆をさらに深めています。



2018年4月11日、平泉町のホームページ
に1通のメールが届きました。

今後も町の取り組みに期待

山手線日暮里駅前で平泉中学校の皆さんか
ら、中尊寺についての丁寧な説明をしていただ
きました。

なかなか立ち止まってくれない都心の人(自
分もそうですが)への声掛けもめげずに、若く
て明るい子どもたちに触れ、久しぶりに中尊寺
などへ旅に出掛けたくなりました。

皆さん一生懸命で真っすぐな瞳で説明をし
てくれました。ちょっと忙しく買い物帰りで荷
物もどっさり持っていたのですが、「お荷物持
ちましょうか?」など気を遣ってくれたりし
て。しっかり説明を聴きました。

今後も町の取り組みに期待しています。
(東京都台東区在住 Aさんより)



⑦久遠に輝く平泉の宝

- 中学生が東京でアピール活動

修学旅行で平泉のPR

- 地域問題を解決するために！

人口減少・少子化問題を自分事にする。

- 町の未来を切り開く力！

交流人口・関係人口・定住人口

4 おわりに

①地域資源を活用した人材育成を進める教育力にある。それは、平泉の全世代型「平泉学」、気仙沼市の「防災教育」「海洋教育」軸にしたESD教育の実践、大崎地域の世界農業遺産の市民教育・消費者教育と学校教育との連携の学び、只見町の只見愛の「只見学」である。

平泉では世界文化遺産の学びを現代に生かしていく
～平泉学カリキュラム。

②地域の多様な関係機関との地域内ネットワークや地域外ネットワークとの連携・連帯を行っていることである。

平泉では、寺社や地域の行政区、地域の産業関係者との連携

③課題として、学校教育、社会教育、市民教育、消費者教育などを連携させた地域の教育力を具体的な地域経済や地域社会の活性化に結び付ける取り組みが指摘できる。

平泉では、地域学習、地域文化体験学習、専門的な文化財学習など！

詳細は以下の論文等を参照してください。

・小金澤孝昭(2020)

「地域ネットワークを活用した持続可能な地域づくり—世界文化遺産・世界農業遺産・ユネスコエコパーク・震災復興をキーワードにして—」

成蹊学園・成蹊大学サステナビリティ教育研究センター

『サステナビリティ教育研究』 第2号

pp.35–50

PDF資料あり

- ・ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム(2020)『地球市民による地域資源を活用したSDGs・ESDカリキュラム開発』
- ・宮城教育大学ESD/SDGs研究会(2020)『東北の人材育成ネットワークを活用したESD学習モデルの創造—学びあいセミナー報告と討論の記録—』

ご清聴ありがとうございました。